平成１５年度短期研修講座

日本の伝統音楽の指導

４年生の題材　様子を思い浮かべて

奄美民謡「行きゅんにゃ加那節」を取り入れた指導

瀬戸内町立古仁屋小学校

教諭　　木場　康恵

1　題　　材　　様子を思いうかべて
　　教　材　　○「おどろう楽しいポーレチケ」
　　○「魔法使いの弟子」
　　◎奄美民謡「行きゅんにゃ加那節」
　　「奄美のわらべ唄」
　　企画・製作　　奄美群島広域事務組合　視聴覚ライブラリー
　　原曲提供　　㈱セントラル楽器

2　題材について

これまでに子供たちは，１年生「おむすびころりん」２年生「泣いた赤おに」３年生「かさじぞう」などの題材での学習活動を通して，お話と音楽を組み合わせて表現したり，場面の様子を想像して歌い方を工夫したりする活動を経験してきている。

この題材では，曲想の変化を感じ取って聴いたり，歌詞の内容や楽曲の気分を味わったりして，音楽を想像豊かにとらえる感性や，表情豊かな表現を工夫していく能力を育てるための活動を進めていくことをねらいとしている。使用教科書では，昔話「つるのおん返し」を，お話と歌と８小節の間奏で表現活動を組み立てていく展開になっている。歌詞の気分を感じ取って歌い方を工夫したり，音楽の曲想の変化を感じ取りながら場面の様子を思い浮かべて聴いたりする活動をもとに「つるのおん返し」を使って，子供たちの想像力を生かす活動へと進めていく。

古仁屋小学校は奄美大島の南の端にあり，気候は年間を通して温暖で子供たちは明朗で活気に満ちている。奄美群島には，音楽を含めたたくさんの文化遺産があり，親から子へ口承という形で伝えられているものが多い。人々の生活の中に「唄」があり「踊り」があり，それらによって，喜びや悲しみ・自分たちの願いを素直に表現してきたという，人間味あふれるすばらしい文化を持っている。子供たちにとっては，祝い事があればウタシャが美しい声で歌う姿を目にしたり，人が集えば三味線やツィヅィン（チヂン）が鳴り響き指笛の軽快なリズムで六調を踊ったり，集落で集まって八月踊りを踊ったりするのがごく当たり前のことであり，奄美の音楽のすばらしい持ち味には気づいていない子供がほとんどである。

そこで，子供たちもよく知っている奄美民謡「行きゅんにゃ加那節」を「つるのおん返し」の代わりに教材にとりいれてみることにした。「行きゅんにゃ加那節」は，愛しい人との別れのつらさや，離れて暮らす寂しさを表現した「歌掛け（問答歌）」である。「加那」という言葉は「愛しい存在」を意味し，子を思う親の愛の歌であり，離ればなれになってしまう恋人同士の歌でもある。また，口承された歌なので，地域ごとに少しずつ歌詞や音程も違い，これという形はない。「つるのおん返し」と比べるとややストーリー性には欠けるものの，場面の様子を想像して表現する活動に発展させられるのではと考え，教材化を進めてきた。今回は，子を思う親の思いにふれさせ，昔は一度旅立つとなかなか再会できなかったことを知らせ，親を思いながらも希望を持って旅立っていく子供の様子を想像できるのではないかと考える。

3　目標（題材の目標）

⑴　情意目標（関心・意欲・態度）

・　音楽の特徴をつかんで，場面の様子を想像しながら進んで聴いたり表現したりすることができるようにする。

(2) 表現の能力

・ 拍子の違いや旋律の特徴を生かした表現を工夫することができるようにする。

・ 拍子の特徴を生かして表現したり，場面に合う音楽をつくって表現したりすることができるようにする。

(3) 鑑賞の能力

・ 曲想を感じ取って，場面を豊かに想像しながら聴くことができるようにする。

4 教材について

(1) 学習指導要領との関連

○ 中学年の児童は，心身の発達が著しく，リズム感の発達に加えて旋律の美しさに対する感受性も増してくる。また，音楽の聴取においても感覚的にとらえたものに知的理解が加わることによって，より確かな能力となる。このような意味から，この目標（３・４学年の目標）では「旋律に重点を置いた活動を通して」と示しているのである。【抜粋：小学校学習指導要領解説音楽編Ｐ３７】

○ 観点（ウ）は，これからの国際社会に生きる児童に必要とされる資質・能力を育成する観点から，諸外国の音楽文化と我が国の伝統的な音楽文化を味わい尊重する態度の育成を一層重視するとともに，国歌「君が代」の指導を充実することについて述べたものである。【抜粋：小学校学習指導要領解説音楽編Ｐ３】

(2) 郷土教材に関する児童の実態

○ 奄美の島唄や民謡・音楽文化への関わりについての実態調査（４年生７７名）

・ 興味・関心

奄美の民謡や島唄が好き	２６名	３４％
そうでもない。	５１名	６６％

家族でよく民謡や島唄を口ずさむ人がいる。	３６名	４７％	島唄をよくうたう家族（複数回答） 祖母（１３名）　兄（２名） 祖父（１２名）　弟（２名） おじ（４名）　姉（１名） 父（２名）　妹（１名） 母（２名）　いとこ（２名） 曾祖母（２名）　本人（２名） おば（２名）
いない	４１名	５３％	

・ 経験

奄美の音楽文化に関わる習い事をしている子供

三味線・島唄	8名	・ 男子３名，女子５名 ・ 公民館講座に子供三味線教室がある。 ・ 校内のクラブ活動にも三味線・島唄クラブがある。
和太鼓	3名	・ 男子１名，女子２名 ・ 和太鼓クラブ（ホノホシ太鼓）に所属
踊り	3名	・ 女子３名（日本舞踊１名，琉球舞踊２名）

奄美の民謡や島唄（主にひぎゃうた）をどのくらい知っているか。

うたの題名	歌える		聴いたことがある		知らない	
いきゅんにゃ加那節	４０名	５２％	３７名	４８％	０名	０％
よいすら節	９名	１２％	１９名	２５％	４９名	６３％
あさばな節	６名	８％	９名	１２％	６２名	８０％
やちゃぼう節	１１名	１４％	１名	１％	６５名	８５％
糸くり節	６名	８％	７名	９％	６４名	８３％
かんつめ節	０名	０％	７名	９％	７０名	９１％
ほこらしゃ節	３名	４％	４名	５％	７０名	９１％
諸鈍長浜節	０名	０％	６名	８％	７１名	９２％
むちゃ加那節	１名	１％	４名	５％	７２名	９４％
嘉徳なべ加那節	１名	１％	２名	３％	７４名	９６％
あいそれ節	０名	０％	０名	０％	７７名	１００％

・考察

実態調査の結果を見ると，地域の生活の中に唄や踊りがごく自然に存在していることに気づいていない子が多いことに気がつく。家族に民謡や島唄をよく歌う人がいるという子が何人もいる反面，興味を持って聴いていなかったり，聴いたことはあるものの題名を知らなかったり，保護者が奄美出身でないなどの理由で，親しみを感じていない子供のほうが多い。その中にあって「行きゅんにゃ加那節」は，島唄の中でも最もよく知られており，子供たちも聴く機会も多く歌える子供も多い。ただ，歌詞の意味の理解については，別れの歌ということは何となく理解しているものの，昔は一度お別れするとその後は連絡を取ったり再会したりするのが今日のようには容易でなく，お互いのことを深く思いながらつらい別れをしたことや，つらさばかりではなく，一旗揚げて親孝行してみせるぞというような希望も盛り込まれた歌詞であることへの理解は不十分であると考えられる。

そこで，歌詞の意味をよく話し合い場面の様子を想像させて気持ちをこめた歌い方の工夫をさせるとともに，鍵盤楽器や打楽器で簡単な伴奏をさせていきたい。

(3) 指導上の留意点（形態・場・人材活用等・実態を踏まえた指導の工夫）

① 奄美の人々がよく親しんできている歌と，お話と楽器での伴奏または間奏を組み合わせ音楽劇をする活動を通して，奄美の歌をもっと知りたい・もっと聴きたい・歌えるようになりたいなどの意欲が持てるようにしたい。自分たちの生活のすぐそばに，奄美の人のやさしい気持ちや困難にくじけない気持ちが歌われた音楽文化があることに誇りを持てるようにしたい。

② ７～８名のグループで音楽劇作りに取り組ませたい。場面の様子を思い浮かべさせ，現代の別れの場面と違う面に気づかせ，その場面を思い浮かべられるような効果音を作る活動にも取り組ませたい。また，頭声的な発声や正確な拍の刻みにこだわらずに，のびのびと表現させたい。

③ 「行きゅんにゃ加那節」は口承音楽であり，メロディーもこれでなければならないというものはなく，また，歌詞も５番（今回調べただけでも）まであり，その５つをどの順番で歌うかについても決まりはない。そのことをよく理解させ，子供がこれまでに歌ったり聴いたりしてきたものを活動に生かしていけばよいことを知らせる。また今回使用する楽譜やＣＤは，島唄にもっと親しんでもらいたいという

気持ちを込めて，奄美の音楽家の先生方が工夫して作ったものであることを知らせ，これ以外にもいろいろな形があることを理解させたい。

5　指導計画

次	各自のねらい	活動目標・教材名・(時数)・☆評価
第一次	◎　拍子の特徴を感じ取って，表現に生かす工夫をする。（２時間）	曲の気分を感じて歌おう。「おどろう楽しいポーレチケ」（２） ・　３拍子の気分を感じ取って歌ったり身体表現をしたりする。 ・　声の出し方や発声に記を付けながら，響きのある二部合唱を工夫する。 ☆　拍子の違いや旋律の特徴を生かした表現を工夫することができたか。
第二次	◎　楽曲の特徴をつかんで，想像豊かに聴いたり表現したりする。（４時間）	曲の気分を感じて聴こう。「まほう使いの弟子」（２） ・　曲想の変化を感じ取って場面の様子を想像しながら音楽を聴く。 ・　オーケストラのいろいろな楽器の音色や重なり合う音の響きを味わって聴く。 ☆　曲想を感じ取って，場面を豊かに想像しながら聴くことができたか。
第三次	◎ 場面を思い浮かべながら表情豊かな表現を工夫する。（３時間）	音楽とお話で楽しもう。「行きゅんにゃ加那節」（５） ・　歌詞の意味を知り，場面の様子を思い浮かべながら歌い方を工夫する。 ・　朗読を表情豊かに表現したり，歌と組み合わせて表現したりする。 ・　朗読や歌に伴奏を加えて，音楽劇を構成して表現する。 ☆　拍子の特徴を生かして表現したり，場面に合う音楽をつくって表現したりすることができたか。

6　本時の実際（7／9）

過程	時間	主な学習活動	指導の手だて・◎評価
ふれる つかむ	8	○　本時の学習についてグループで話し合い，めあてを確認する。 「行きゅんにゃ加那節」の場面に合う音色を考えて，ばんそうや間そうをつけよう。	・　いろいろな楽器を選んで演奏してもよいことをしらせる。別れの場面や，夜中に相手のことを考えて眠れない場面にあう音色や演奏の仕方を工夫することを知らせる。 ・　歌に合わせて演奏し，情景や曲の気分に合う楽器を話し合って選ぶようにする。
深める 分かち合う	27	○　副次的な旋律や間奏を演奏する。 ・　歌の情景に合う楽器を工夫する。 ○　お話の場面に合う音をイメージして音や音楽を作る。 ・　グループで場面を分担し音楽をつくる。 ○作った音や音楽を中間発表して，相互評価する。	・　楽器や身の回りの物を使い，朗読に重ねる効果音をつくったり，情景を表す短い旋律や和音をつくったりする。 ・　拍節のある音楽，拍節のあいまいな音楽等いろいろな形が予想されるが，イメージをもって自分たちで音楽を作ろうとしたことを重視し，どんな形式も認めるようにする。 ・　場面にふさわしい音や音楽が作られているかどうかを観点にする。 ◎　場面にふさわしい音や表現の仕方を工夫している。
広げる	10	○　本時の活動を振り返り，次時の計画を立てる。 ・　相互評価をもとに，作った音や音楽を修正していく計画を立てる。 音色，重ね方，間，強弱、響き合い，バランス，　等	・音楽的なポイントについては，指導者が子供のつくった音楽や相互評価の中から適切なものを意識的に見つけて賞賛し，具体的な音で確認するようにする。それにより，1グループの作品やその工夫がクラス全体の音楽的な財産となる。

7　考察

○ 成果と課題について

・　子供たちへの実態調査から,身近に民謡や島唄があるにも関わらず,子供たちはあまり興味・関心をもってはいないことがわかり,今後,教科音楽をはじめとする教育課程の中に意図的に伝統音楽に関する内容を取り入れ,子供たちに地域の音楽活動についてより深く知らせ,誇りを持たせる必要性に気づくことができた。

・　民謡・島唄は口承音楽であることから,出来上がった楽譜やＣＤでの演奏には戸惑いを覚える子供もいた。西洋音楽との違いや,「生活の中に根ざしている」という民謡の特長について理解させ,思いを込め自由に楽しく歌うという,奄美の音楽のすばらしさや多様性に気づかせることが大切なのではないか。

・　私自身,書籍などの資料での研究にとどまった「にわかじたて」の指導になってしまった。子供たちにとっては,生まれたときから聴いている民謡と,教師が提供した民謡の学習活動がそれなりに重なっているかが心配である。教師自身が,もっと民謡について知り,地域の方に習いながら,より本物に近づく努力をしていきたい。

・　「行きゅんにゃ加那節」の他にも,奄美にはたくさんのすばらしい音楽文化がある。今回の教材化の成果と課題を踏まえて,４年生以外の学年の教育課程にも組み込めるものがないか研究を続けていきたい。

様子を思いうかべて

氏名

「こぎやさ＊加那節」

奄美大島には、たくさんの島唄や民謡が残されています。奄美の人々は、思いを唄にこめて相手に伝えることをよくしていたそうです。「いきゆんにや加那節」は大事な人とお別れする時の思いをうたっています。この唄には歌詞がたくさんありますが、私たちは旅立つ子供と見送る家族の気持ちや様子を思いうかべて表現します。

音の強さや大きさは？

たいこやけんばん楽器で

一番をうたう

いきゆんにやかな
わきやくとう
わしりてい
いきゆんにやかな
なきやくとう
うめばや
いきぐるしや
スラいきぐるしや

たいこやけんばん楽器で

二番をうたう

めぬさめてい
ゆるやゆながとう
めぬさめてい

（一番の唄の後に）

見送る家族

「あなたはわたしたちを残して行ってしまうのですか。」

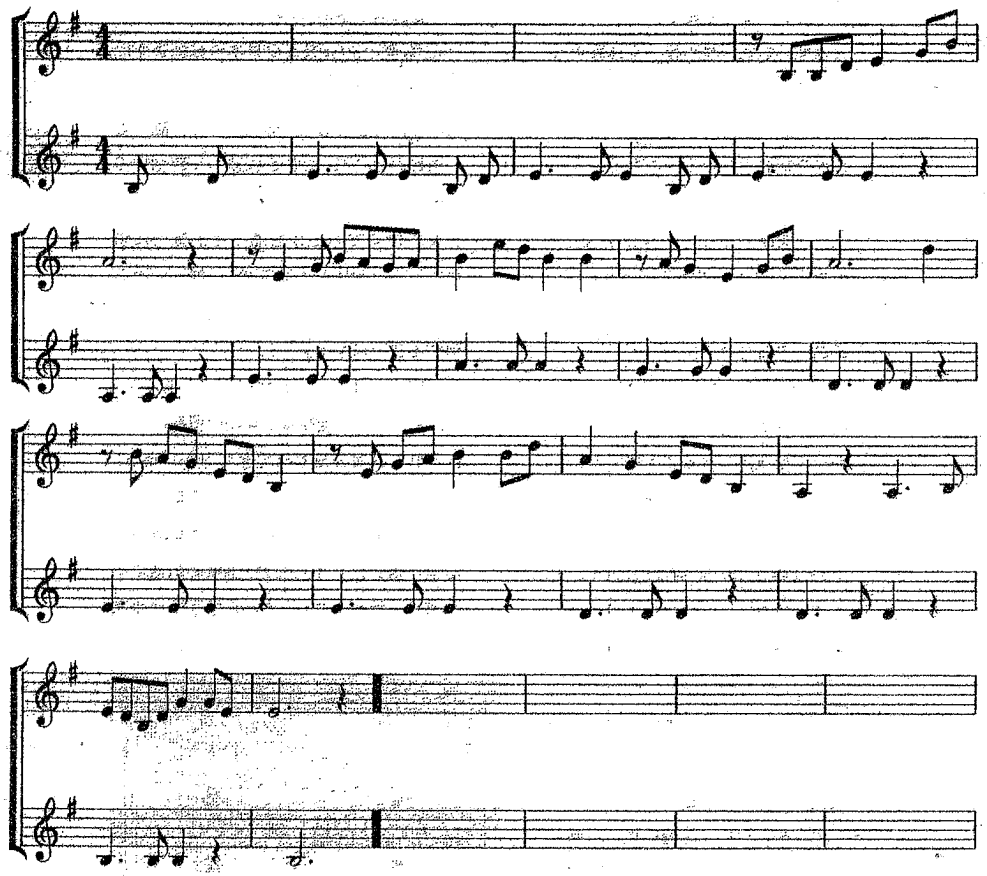
旅立つ子

「いや、出発しようとするのですが、あなたがたのことを思うと、行くのがとてもつらいのです。」

いきゆんにゃ加那節

奄美民謡

♩=78



（二番の唄の後に）

「夜の夜中に目がさめて、あなたのことを思うと眠れませんよ。」

なきゃくとう
うめばや
ねぶららんよ
スラねぶららぬ

（三番の唄の後に）

旅立つ子が家族に向けて

「お母さん、お父さん、心配しないでください。私はりっぱに働いて、お父さんやお母さんにお米や豆をあげられるようにがんばりますから。」

三番をうたう

あんまとうじゅ
きぬどうく
かんげんしょんな
あんまとうじゅ
こめとうてい
まめとうてい
みしょらしゅんど
スラ
みしょらしゅんど